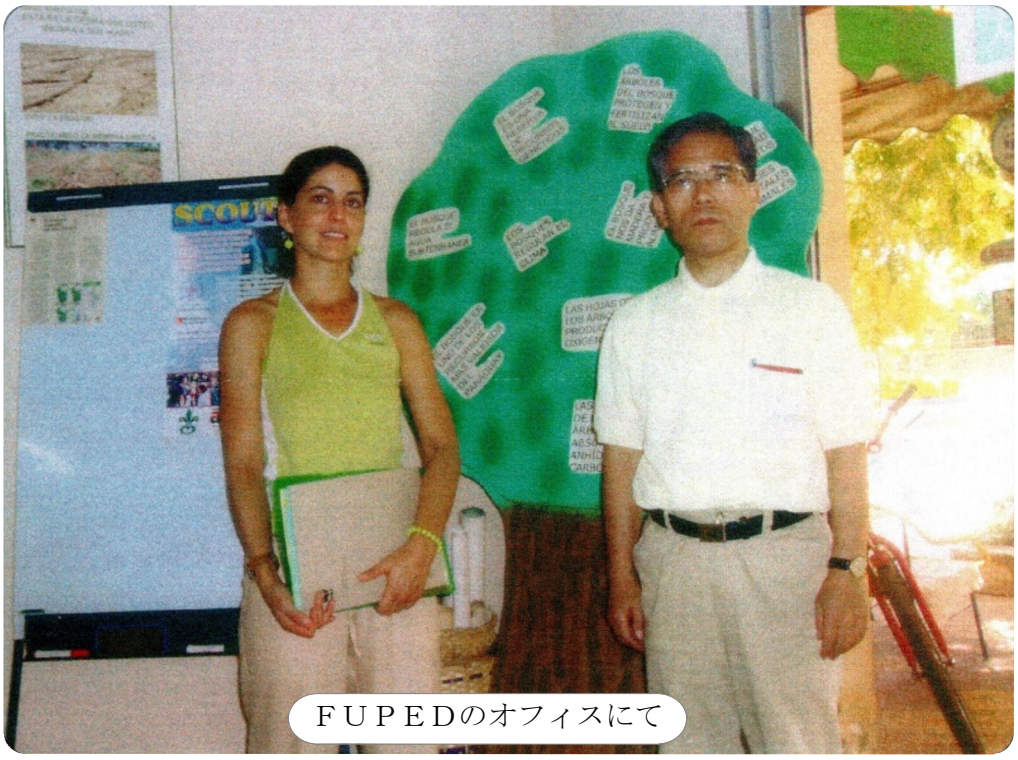
パンタナール通信

南北米福地開発協会　会報　２００５年２月１日発行　第１７号

世界の異常気象防止に、樹木を通して多くの酸素を地球に供給しよう！！

オビエド市に拠点を置くFUPEDの事務所で責任者のナンシー・ロハス女史から活動の報告を受け、今後、特に植樹活動に協力することを話し合った。

ロハス女史は小学校、中学校の生徒の時から環境保護の重要性を教育することが大切であることを強調しておられた。今まで学校等で樹の模型を作り、植樹の重要性を訴えて来たとのことでした。当協会から今後、資金の援助と共に教育活動を援助いたします。



ＦＵＰＥＤのオフィスにて

植樹活動予定中学校

昨年、十二月にパラグアイ国を訪問した際、パラグアイ環境庁から紹介された環境保全に力を入れる団体を訪問してきました。南北米福地開発協会では当協会発足以来、パンタナール地域の自然林の保護と植林を心がけ、既にチャコ地方、レダおいて、植樹活動を展開してきました。

レダの地は環境的には三ケ月以上も乾季が続き、土壌も粘土層で、難しい地域であるが、植林の可能性について調査研究をしてきました。植樹を始めて、四年以上の歳月が経過、色々な種類の木々が順調に育ってきています。今後もチャコ地方の植樹を継続しながら、同時にパラグアイ国の東部に位置する地域への溝樹活動も展開する計画です。

首都アスンシオンから東に二〇〇Kmほどの所にあるオビエド市で活動するエコロジー団体（FUPED）を訪問し、責任者（ナンシー・ロハス女史）に会い、今年の三月に当協会と地球の緑を守る会（高津事務局長）そしてFUPEDと合同で中学校の学生への環境教育と学校校庭と市内への植樹をなすことになりました。

（柴沼記）

レダ基地植樹園

高津啓洋地球の緑を守る会（ＮＰＯ）事務局長

『地球の緑を守る会（略称 緑の会）は現在＝パラグアイ・パンタナール地域に森を再生する事業を行っています。

地球環境の危機が各国で叫ばれていますが、その対策は年々多様化、複雑化の傾向にあり、私達市民がどんなアクションを起こせばいいのか分かりにくいというのが現実ではないでしょうか。

本会は「荒れ果てた地球環境の豊かさを回復する一番確実な方法は森林の保護・再生にあり」という生態学の最新理念に基づき、誰にも理解できる、すぐ実行できる植樹活動を推進しています。森林は地球の肺あるいは緑のダム、野生生物のゆりかご、また近年は遺伝子資源の宝庫と言われ、地球温暖化の軽減、自然災害の防止、種の絶滅の阻止、人間の健康と福祉に有益な資源を提供してくれるなど、数々の重要な機能を持っています．つまり．森は豊かな生態系を支える何ものにも代えがたい、命の基盤なのだと言う考え方を本会は最も大事にしています。緑の会の活動の第一歩は二〇〇一年四月に現地で行った最初の苗木の植え付けでした。それから三年後の二〇〇四年一月、東京都認可の環境ＮＰＯの資格を取得しました。かつては放直されたままの不毛の土地だった牧場跡地に今では若々しい森が育っています。こうした活動を支えているのは全国各地の会員の皆様です。「考える時は地球規模で、行動は足元から」という言葉があります。これは市民レベルで活動する人々の行動の原則であり、環境分野での世界の合言葉にもなっています。文字通り、地球の反対側に位置するパンタナールに木を１本でも植えることにより環境保全で国際貢献する、まさに会員の方々は日本に居ながらにしてこの原則を実行しているわけです。このような環境時代を先取りした活動を継続できる背景には南北米福地開発協会の協力があります。森林再生地をはじめ滞在施設の提供や現地でのガイド、通訳など、様々な支援を受けることで植樹活動が成り立っています。今後とも南北米福地開発協会との共同プロジュクトの形で森林再生事業を発展させていければと考えています。』

田岡功在日パラグアイ特命全権大使を招いて四月十日午後二時から講演会が開催されることが決定しました。場所は現在検討中。

南北米福地開発協会
〒二一三-〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区溝口三-十一-十五
岩崎ビル４Ｆ
電話番号 〇四四-八二九-二八二一
ファックス 〇四四-八二九-二八二〇
郵便講座
記号 一〇一八〇 番号七七六八〇四七一
南北米福地開発協会 代表 柴沼邦彦

復刻版